



地域や医療の実態などを学ぶゼミが、 生徒も地域も活力を得る場に

和歌山県・私立近畿大学附属^{しんぐう}新宮高校・中学校

取り組みの概要

近畿大学附属新宮高校・中学校は、2021年度から、地域と連携し、「放課後ゼミ」を開講している。同ゼミは、医療系志望者対象の「医療ゼミ」、地域活性化をテーマにした「地域ゼミ」、教師志望者対象の「教育ゼミ」、近畿大学と連携して水産の研究を行う「水産ゼミ」の4つから成る。中学3年生・高校3年生を対象に、月1回のペースで実施しており、希望者が通年で参加するほか、地域人材の講演会などは全生徒が参加できるように、進路意識の醸成も図っている。

医療ゼミでは、医療従事者による講演やワークショップ、大学入試の面接支援などを地域と連携して実施。医療系学部・学科の合格者数の増加を後押ししている。

地域ゼミでは、主に公務員を目指す生徒が地域活性化や地域貢献について学ぶ。22年度は、新宮市の観光地を巡るフィールドワークや「熊野魅力再発見コンテスト」への参加、新宮市役所や那智勝浦町役場の観光担当職員との座談会などを実施した。



地域 の視点

命や地域課題に
真摯に向き合う生徒の姿が、
地域人材の活力になる

医療分野の地域連携は、14年度に地域の医療従事者による勉強会（*1）に、生徒が誘われたのを機に始まった。救急救命士の速水敏人さんを代表とする勉強会のスタッフは、「一人の役に立ちたい」と熱心に参加する生徒に感動し、メディカルラー（*2）の高校生版「紀南メディカルラー甲子園」を企画（写真1）。同校を含む地域の複数の高校が参加する大会とし、毎年夏に開催している。「命と真剣に向き合う高校生の姿にいつも涙が流れます。私たちも改めて命の貴さを思い、もっと人の役に立つために学び直そうと意欲が湧いてきます」と、速水さんは語る。



写真1 「紀南メディカルラー甲子園」では、「地震発生時に介護施設の入居者を避難させる」などの設定で、自ら判断して対応することができるかを競う。

医療ゼミは、勉強会や大会を通じて懇意となった医師や看護師、卒業生の医療従事者等と連携して実施している。

地域ゼミで行った新宮市役所の職員と生徒との座談会では、「この道は危ないのでミラーをつけてほしい」と、自転車を通う高校生らしい意見が出された。総務課の畑下鎮男さんは、「ゼミは市民である高校生に地域理解を促すとともに、行政にとっては多様な市民と語り合い、よりよい市政を考える場になっています」と、地域ゼミの意義を語る。その観点から新宮市役所では、ゼミへの協力を職員研修の1つに位置づけている。



新宮市役所 総務部総務課職員係係長
畑下鎮男
はたした・しずお
2021年度から放課後ゼミにかかわる。



熊野市消防本部 救急救命士
速水敏人
はやみ・としひこ
2014年度から同校と連携。

* 1 三重県の紀南病院・消防・医師会による「紀南救急勉強会」。2014年から、地元の医療従事者が参加する「紀南メディカルラー」を開催。
* 2 医療従事者がチームで参加し、模擬の災害現場で救急活動を競う競技会。

学校の視点

幅広い地域人材との交流が、生徒の進路への視野を広げる

紀南地区を代表する進路学校の同校は、10年前から地域への人材の還流を教育目標の1つに掲げている。14年度に始まった医療分野での地域連携以降、有志の教師を中心に、地域と連携した進路学習を推進する、教師・公務員志望の生徒対象の教育活動に発展した。

そして21年度、一連の活動を学校の特色の1つとするため、4つのゼミに再編した。進路指導部長の榎本圭吾先生は、「医療現場や地域について知るこ

とで、生徒の中で郷土愛や課題意識が醸成され、地域に戻る人を増やすとともに、生徒が大学入試の志望理由書や面接において、自分の強い志を語れるようになりたいと考えました」と語る。

医療ゼミでは、医療従事者が現場の過酷な状況を生徒に率直に伝える。生徒にとっては医療分野に進む覚悟を持つていかどうかの場であり、進路選択のミスマッチの防止につながっている。また、医療分野の多様な職種の仕事者が講師を務めてくれる利点は大きい。「現場で重視されるチーム医療

の素養を育むことにもつながります。幅広い人材と出会えるのも地域連携のよさです」と、池上博基校長は語る。

大人との交流は生徒の自己肯定感も高めている。地域ゼミ担当の大石泰義先生は、「観光や防災に関する生徒の様々な提言に、職員の方は耳を傾けてくれます。生徒もそれに応え、地域に役立ちたいという思いを強くしています」と語る。



校長
池上博基
いけうえ ひろき
同校に赴任して30年目。



進路指導部長
榎本圭吾
えのもと けいご
同校に赴任して20年目。医療ゼミ担当。英語科。



校務広報部長
大石泰義
おおいし やすよし
同校に赴任して30年目。地域ゼミ担当。地理歴史・公民科。

地域学校の視点

地域人材との連絡などにも生徒がかかわることで、持続可能な地域連携に

地域連携の成果は、進路実績や生徒の進路選択に表れている。学校推薦型選抜における三重大学医学部の地域枠や、和歌山大学教育学部の地域【紀南】枠などの設置もあり、医療系学部や教育学部に毎年一定数が合格。公務員志望の生徒は、以前は公務員試験を見据えて法学部に進学する者が多かったが、ゼミで地域課題に向き合った経験(写真2)から、地域創生や街

づくりなどの将来像を具体的に持つて学部・学科を選択するようになった。大学卒業後に地元に戻り、医療や行政に携わる卒業生も出てきている。

今後の課題は、ゼミの活動をいかにして継続・拡大するかだ。現在の活動は担当の教師や地域人材によって支えられている。「生徒の募集や地域人材との連絡、講師の確保など、様々な業務をどのように軽減するかが、地域連携を継続する鍵になると考えています」と、榎本先生は語る。



写真2 世界遺産「熊野古道」を有する新宮市。国内外から大勢の観光客を迎える立場を踏まえて、高校生と市役所職員が意見を述べ合った。

そこで、地域人材との連絡など、教師が担う業務の一部を生徒が担当することを検討中だと、池上校長は語る。「地域連携に主体的に取り組んだ生徒が、大学卒業後に地元に戻って母校の教育活動を支えるといった循環をつくることで、持続的に地域連携を行える環境を整えることを目指します」

学校概要

設立 1963(昭和38)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約110人

2022年度卒業生進路実績 国公立大は、静岡大、三重大、大阪教育大、神戸大、和歌山大、三重県立看護大、奈良県立大、和歌山県立医科大などに23人が合格。私立大は、明治大、同志社大、立命館大、関西医科大、関西大、近畿大などに延べ179人が合格。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

〈本コーナーは隔号連載です。今回は2月号の予定です〉